

第1学年A組 音楽科学習指導案

- 1 題材名 情景を思い浮かべ、詩と音楽の関わりを感じ取って歌おう（2時間）
教材名 表現（歌唱）「赤とんぼ」（三木露風作詞 山田耕筰作曲）

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

- A 表現 (1) 歌唱 ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。
イ(ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり
ウ(ア)創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能
- [共通事項] (1) ア 旋律、強弱

(1) 題材観

本題材は、「赤とんぼ」の教材を通して、旋律と強弱の結びつきや、旋律と言葉の抑揚との関係などを感じ取り、歌詞がもっている詩情を味わいながら歌唱表現を創意工夫することをねらいとしている。生徒に、「赤とんぼ」の曲想や言葉の抑揚に関心をもたせ、音楽を形づくっている要素である旋律・強弱をよりどころに、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解させる。そして、言葉の発音や身体と息の使い方などの技能を得たり生かしたりさせながら、歌唱表現を創意工夫し、表現できる力を身に付けさせたい。

(2) 指導観

＜教材について＞

「赤とんぼ」は、大正10年に三木露風が作詞し、昭和2年に山田耕筰が作曲した作品で、中学校共通教材「心の歌」に指定されており、我が国で長く歌い継がれてきた情緒豊かな童謡の一つである。しかし、生徒にとっては、現代の生活とはかけ離れた詩の内容であり、イメージするのが難しいことが予想される。写真で風景を見せたり、わかりやすく言葉の意味を説明したりと、生徒が作詞者や作曲者が生きていた時代や生活について情景をイメージし、表現に生かせるよう指導していきたい。

1番から4番まである歌詞の内容に注目した表現の工夫では、「赤とんぼ」「桑の実」「姐や」などの言葉から想起される作詞者の思いを理解し、言葉の抑揚と旋律の動きから伝わる情感を捉えられるようにしたい。歌詞の内容は、1番では現実から回想へ、2番、3番と回想の場面が続き、4番では現実の内容になっている。幼い自分の世話をしてくれた子守のお姉さんがお嫁にいつてしまい、もう二度と会えないかもしれない。その寂しさや切なさが、赤とんぼを見たことで、幼い日の思いとともに蘇ってきたという感情の高まりなどが、生徒に伝わるようにしていきたい。そのために、1時の授業では、歌詞の朗読を聞く時間をとり、作詞者の思いや情景を想像させる時間を十分にとりたい。

<研究の視点との関わり>

【視点1】〔共通事項〕を支えにした、9年間の学びの連続性を考えた授業づくり

②既習を生かして学びを深める授業づくり

生徒は、小学校6年生時に、「歌詞の表す情景を思いうかべながら、曲想にふさわしい歌声で歌いましょう」で「おぼろ月夜」を歌っている。楽曲の後半は二声になり、曲の山を迎えることや、旋律の動きと強弱の関わりについて学習している。

中学校では、歌唱の学習の際に、旋律の動きを手で表して音の高さを視覚化したり、実際に指揮を試してみたりして、曲の山を確かめる活動を行っている。また、旋律と強弱の関わりについては、旋律づくりの学習で、「音が高くなると音が強くなる」ことや、「音を低くして、だんだん弱くし、まとまりをつけて曲を終わらせる」といったことを意識して旋律づくりをしていた生徒もいた。授業の中で、一人の生徒が気付いたことを、全体に共有できるように学習を進めていきたい。

【視点2】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

①音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て

日本語の歌詞と旋律の動きとの関わりに注目したり、きめ細かくつけられた強弱記号の意味に注目したりしながら、作品のイメージを広げていきたい。言葉の抑揚と旋律の動きが結びついていることや、旋律の動きと強弱が自然に結びついていることに生徒が気づき、歌唱表現の工夫に生かせるようにしたい。そのために、旋律の動きを線をつなぎ、言葉の抑揚と照らし合わせた図を提示する。生徒が強弱記号を楽譜に記入する活動を取り入れ、どのように強弱の変化をつけると思いが伝わる歌い方になるか、ヒントになるものを掲示し、意見交換しながら歌い試す場を設定する。また、旋律の高さや動き、言葉の抑揚を手で表したり、指揮を試してみたりして、身体を動かす活動を取り入れながら、音楽の特徴を体感し曲について理解する場も設定したい。

【視点3】評価の在り方<主体的に学習に取り組む態度>

主体的に学習に取り組む態度の評価については、授業でのグループ活動の様子やワークシートの記述内容、振り返りシートなどを活用して学習への取り組みの変容を見取りたい。

○粘り強く取り組んでいる様子

十分満足できると判断される姿	「赤とんぼ」の歌詞の内容や旋律と曲想との関わりに高い関心を持ち、積極的に他者と関わりながら、粘り強く取り組んでいる。
おおむね満足できると判断される姿	「赤とんぼ」の歌詞の内容や旋律と曲想との関わりに関心を持ち、他者と関わりながら、粘り強く取り組んでいる。

○自己調整しようとしている様子

十分満足できると判断される姿	自己の考えをもつだけでなく、他者の演奏についても助言したり、グループの演奏をより高めようとしたりして、グループ全体の学習を調整している。
おおむね満足できると判断される姿	他者からの助言を参考にしたり、グループでの話し合いを参考に自分の考えを振り返ったりして、自らの学習を調整しようとしている。

3 題材の目標

- 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- 旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- 歌詞の内容や曲想に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 **知** **技** **知技**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知技 「赤とんぼ」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「赤とんぼ」を歌うために必要な発声、言葉の発音や身体の使い方などの技能を身に付けている。	①「赤とんぼ」の、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	①「赤とんぼ」の歌詞の内容や旋律と曲想との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画及び評価計画 (2時間扱い) (本時 2/2)

次	時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆ [音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)]	○教師の働きかけ ・目指す児童 (生徒) の姿 【視点】	評価規準 (評価方法)		
				知技	思	態
◎歌詞の内容を理解し、詩と音楽の関わりを考え表現の工夫をする。						① (観察・記述・聴取)
第一次	第1時	○「赤とんぼ」の歌詞の内容にある情景や曲想、言葉の抑揚に関心をもつ。 ・歌詞の朗読を聞き、作詞者の思いや情景を想像する。 ・範唱を聴き、曲の全体像を捉える。 ・作詞者と作曲者について知る。 ・「赤とんぼ」の旋律を全員で歌う。 ○旋律と言葉の抑揚との関わり、旋律と強弱の関わりについて捉える。 ・学習プリント3番に、例を参考にしながら記入する。 ・言葉の抑揚と旋律との結びつきを理解する。 ・全員で歌う。 ☆ [旋律]	○歌詞を朗読する。「赤とんぼ」「桑の実」などの写真を掲示し、詩のもつ情感や背景を感じ取らせるようにする。 ・曲想や歌詞の内容に興味を持ち、特徴を捉えることができる。 ○無理のない発声で歌うよう働きかける。 ○言葉の抑揚と旋律の動きには、深い関係があることを気付かせられるよう発問を工夫し、意識して歌えるよう促す。 ○旋律線の図を提示する。 【視点1②】 ○旋律の動きや言葉の抑揚を手で表す。 ○言葉の抑揚と音のつながり方を意識して歌わせる。	知技 (記述・発言)		① ↓

第2時 (本時)	<p>○前時の学習内容を思い出しながら1番から4番まで歌う。</p> <p>○1番1フレーズ目の歌い方についてクラス全体で考える。</p> <p>○グループに分かれ、歌い方の工夫について考え、歌い試す。 ・前時に学習したことをグループで確認しながら、歌い方を試す。</p> <p>○それぞれのグループで工夫したことを発表する。</p> <p>○全体で歌う。 ☆〔旋律、強弱〕</p>	<p>○曲の特徴を振り返りながら歌うように促す。</p> <p>○出てきた考えを板書することで、「強弱」に着目し、歌唱表現の工夫ができるようにする。 【視点2①】</p> <p>○工夫したことにより、表現が深まったことを価値付けする。 【視点3】</p>	① (記述・発言・聴取)
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------

6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

歌詞の内容を理解し、詩と音楽の関わりを考え表現の工夫をする。

(2) 本時の展開

学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ・目指す児童(生徒)の姿 ◇評価規準(評価方法) 【視点】
1 前時の学習を振り返り、1番から4番まで歌う。	○前時のワークシートで、曲の特徴を確認し、歌うように促す。
2 歌詞に込められた作者の思いを確認する。	○作詞者の幼い頃の記憶やそのことに対する思いが歌われていることを押さえる。
3 本時の目標を知る	旋律の特徴や歌詞の内容に合った表現で歌おう。
4 強弱記号に着目し、歌い方の工夫を考え実際に歌いながら試す。 ・P、mP、mf、f、  読み方と意味を確認する。 ・1番の歌詞の1フレーズ目の強弱記号についてクラス全体で考える。 ・個人で考えたものを発表し、共有する。 ・実際に歌いながら強弱の効果を確かめる。 ☆〔旋律・強弱〕	<p>○掲示物を使って強弱記号の読み方と意味を確認する。</p> <p>○強弱記号を記入させ、なぜそのような理由にしたのか考えさせるために、旋律線の掲示物、拡大歌詞を用意する。</p> <p>○旋律の形や歌詞の内容などから強弱の変化を考えたことが分かるように板書し、この後の活動のヒントとして示す。</p> <p>・旋律の動きや歌詞の内容から強弱記号を考え記述することができる。</p> <p>○考えを発表させ、実際に歌いながら強弱の効果を確かめるように伝え次のグループ活動につなげられるようにする。</p>

<p>5 1番、2番、3番、4番のいずれかの歌詞を選び、歌い方の工夫を考え、実際に歌いながら試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考える。 ・同じ番号の生徒同士で、意見の交換をする。 ・選んだ番号のグループ内で歌い試す。 ・グループの中で、どのように歌うか決める。 	<p>○歌詞の内容や、作詞者の心情を振り返らせながら、強弱に着目させて表現方法を考えさせる。</p> <p>○音が弱い・強いだけでなく、どのような音色なのか、どうすれば歌詞の内容が伝わるのか考えるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇「赤とんぼ」の、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">（思考・判断・表現） ＜観察・記述・聴取＞</p> </div>
<p>6 それぞれのグループで工夫したことを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の形、言葉の抑揚、歌詞の内容などをもとに、どのような強弱で歌いたいかを考えている。
<p>7 全員で歌う。</p>	<p>○歌詞の表す情景を想像し、今まで学習してきたことを振り返りながらクラスで歌唱する。</p>
<p>8 振り返りの記入をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が考えた歌い方の意図を理解したり、解釈に共感したりして歌っている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇「赤とんぼ」の歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）</p> <p style="text-align: right;">＜観察・記述・聴取＞</p> </div>